

B-47 衣服のドレープの美しさに関する研究 (オ1版)

東海学園女子短大 水野子春 手尾玄範・出羽秀明

目的 ドレープ性に関する官能検査は近年かなり行われている。しかしそれらは主としてドレープの外観の美しさと、ドレープメータによって得られるハム曲線の形状特性との関係をとらえようとするもので、実際の衣服に現われるドレープの美しさに関するものではない。本研究は衣服の形態的美しさの評価に関する基礎的資料を得ようとしたものである。

方法 織物のドレープの美しさと実際の衣服に現われるドレープの美しさの評価を比較検討するため、次の6種類の官能検査を行った。1.フレアースカート(人台)の外観 2.フレアースカート(人台)のハム曲線 3.フレアースカート(円支持)のハム曲線 4.円型布(半径40cm, 円支持)のハム曲線 5.ドレープメータによるハム曲線 6.ドレープメータによる外観。パネルは本学被服コース2年生9名。試料布は重さ、剛さと考慮し市販織物の中から7種類を選んだ。ハム曲線の形態特性値は4種類のハム曲線からその形状を示すと思われる12項目を考え、多変量解析法により検討

結果 6種類の官能検査の結果、美しさの判定に一致性が認められた。相関係数は $r_{1,2}=0.656$, $r_{2,4}=0.958$, $r_{4,5}=0.043$, $r_{5,6}=0.991$ となり、他の報告にもみられるように織物のドレープの美しさの評価は、ドレープメータによるハム曲線の評価と同傾向を示すが、実際の衣服のドレープの美しさはハム曲線の評価とは必ずしも一致しない。また官能値と形状特性値との相関は単独ではほとんどみられなかった。